

# 梅雨明け間近にチヌふかせ釣り in 大津島

2024年8月1日

1 / 4

今年のコラムへの寄稿候補として、アウトドアスポーツメーカーのシマノが主催するチヌの全国大会予選への参加レポートを頭に思い浮かべていましたが、大会参加ともなると1時~2時の起床となることに加えて、行き帰りの車の運転や足場が良いとは言えない磯に立ち続けての6時間の釣りには気力、体力ともに持ちこたえられそうもないので、早々と大会への参加は思いとどまり、前回に続いて離島の波止でのチヌ釣りレポートをお届けさせていただくこととしました。

そこで、今回どこに行こうかと思案した結果、前述の地区大会の一つとしてかつて開催されていた徳山大会が周南市の大津島周辺の磯を中心に開催されていたことなどを勘案し、大津島へ釣行することを思い立ちました。

今回釣り場として選んだ大津島は、徳山下松港の南西約10キロメートルに位置し、島の大半は瀬戸内海国立公園の区域に指定されています。

「出口のない海」など、過去映画化されたことのある日本海軍の特攻兵器「回天」の訓練に使用されていた基地跡や「回天」にまつわる遺品、写真などの資料を展示した回天記念館があることで有名です。

本土と大津島は2隻の定期船が併せて1日7往復（鼓海Ⅱ：4便、フェリー新大津島：3便）運航されており、大津島にある4つの港を巡行しています。その港の中からどこへ釣行するか検討した結果、釣果情報と滞在時間から島の最も南に位置する馬島港に決定。また、行きは徳山発第1便となる7時40分発のフェリー新大津島、帰りは釣果の状況に応じ13時発のフェリー新大津島 or 14時発の鼓海Ⅱのどちらかにすることにしました。



行き帰り乗船したフェリー新大津島

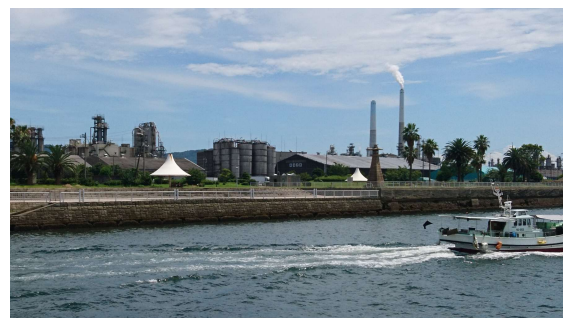
収集した馬島港での釣果情報では、アジ、メバル、カレイなどに加えて、ふかせ釣りでチヌやグレがターゲットとなっているとのことでしたので、夏場で厳しいかなと思いつつもちょっと期待しての釣行となりました。

5時40分にわが家を出発し、途中コンビニでお昼ご飯と飲み物を買って7時5分に徳山港に到着。まず、徳山ポートビル内にある乗船券売り場にて往復の乗船切符1,440円を購入し、車に戻ると近くにいた船員さんから乗船できますよと声をかけていただいたため、そのまま乗船してクーラーの効いた2階の客室で出港を待つことに。

ざっと見たところ釣り客は私を入れて5人のため、釣り座競争は起こりそうもなくまずは一安心でした。

予定時刻ちょうどに出港、今回乗船したフェリー新大津島の航海速度は11.3ノット（時速約21km）のため、周囲の景色を見ながらゆったりとした船旅になりました。

出港してすぐ、左舷方向に晴海親水公園が視界に入ってきました。この公園は海沿いにヤシの木が植えられ南国情緒あふれた公園として親しまれており、また、



海から臨む晴海親水公園

# 梅雨明け間近にチヌふかせ釣り in 大津島

2024年8月1日

2 / 4

対岸にコンビナート群が広がっていることから、工場夜景のビュースポットとして「日本夜景遺産」に認定されています。

なお、この公園は冒頭に記載した徳山大会での本部が置かれ、開・閉会式や瀬渡し船の発着場所として利用されてきましたので、競技として緊張感ある釣りを楽しんでいた頃を懐かしく思い出させてくれました。

続いて、2基のガントリークレーンが目に入ってきました。徳山下松港は、貨物のコンテナ化に対応した県内最大級のコンテナターミナルとして利用されているだけあって、岸壁には多くのコンテナが積み上げられていました。

また、遠目には南北になだらかな標高362mの太華山が横たわっています。太華山と言えばその昔「太華山の麓に男の闘志が激突する、徳山ポート！」というキャッチフレーズのCMが、テレビやラジオで流されていたこともあり、太華山と聞けば私はボートレースを頭に思い浮かべてしまいますが、ハイキングコースが整備され、山頂からは瀬戸内海の島々や大分県国東半島などを望むことができ、多くの登山者で賑わっている山です。

一方、右舷方向はというと、工場群が見えるなど思ったのもつかの間、その景色は仙島、黒髪島の緑の山肌へと変わって、最初に寄港する刈尾港の入港間近になってようやく視界が開けた頃、北の方角に国会議事堂の外壁や東京スカイツリーソラマチ広場のモニュメントなどに使われている花崗岩を産出した黒髪島の石切り場が見えました。

船は予定通り8時24分馬島港に到着し、釣り座に予定していた西側の波止に向かおうとしましたが、なんと私以外の4名の釣り客全員が私とは反対の東側の波止に向かわれました。釣れるのはそっちか？と思い一歩東側の波止方向へ踏み出しましたが、いやいや初志貫徹と思いなおし、判断が間違っていないようにと祈りながら一人西側の波止へ向かうことに。

7月20日（土）の潮回りは中潮で、徳山港の潮位予測は満潮午前7時12分、干潮午後1時56分。

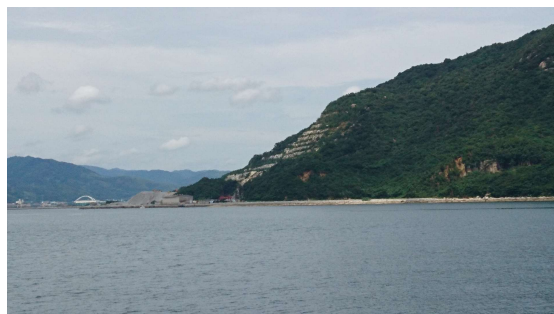
天気は、期待していた梅雨明けの真っ青な夏空からはほど遠く、どんよりとした梅雨空で焼けつくような日差しはなかったものの、風が微風程度でとにかく蒸し暑く、額から流れてくる汗を拭きながらの釣りとなりました。



晴海7号岸壁のガントリークレーン



大島半島を作っている太華山



少しだけ見えた黒髪島の石切り場

# 梅雨明け間近にチヌふかせ釣り in 大津島

2024年8月1日

3 / 4

釣り座は定期船の航路に近い波止の先端は避けて、若干陸地側に寄った外向きに構えることにしました。

さっそく仕掛けをつくり撒餌さをセットして、9時には釣りをスタート。まず、お決まりの手順で撒餌さを堤防の真下に撒いて海の中を観察すると、潮は動いておらず、エサ取りは見えない。

続いて、水深を測定すると竿2本のため、まずはウキ下を水深いっぱい設定し、付けエサをオキアミにして仕掛けを投入。続いて撒餌さを撒いてしばし待ちましたが、あたりがなく仕掛けを上げてみると付けエサはなくなっていました。

数回繰り返しても同様な状態が続いたため、何が付けエサを取っているのか見当をつけようと、海の中が見やすい波の静かな波止の内側に撒餌さを撒いてみると、グレが撒餌さに群がるのが見えました。

そこで、付けエサをエサ取りに強い練り餌に変更し、しばらく仕掛けと撒餌さの投入を続けますが、あたりは出ませんでした。

投入場所等を変えながら釣り始めて1時間がたっても、エサ取りすら釣れない状況が続き、今回は完全ポーズかと焦りを感じ始めた頃、携帯に間もなく雨が降るとの表示が出ました。

このため周囲を見渡してみると市街地方向から雨雲が近づいてくるのが見え、さらに湿った生温い風も北から吹いてきたため、びしょ濡れになるのは勘弁と思い、釣りを一時中断し雨具を出すなど雨に備えることに。

結局、ほとんど雨は降らず肩透かしを食らった形になりましたが、しばらく釣りを中断したことで釣りの組み立てを見直す時間ができ、結果的にこれがいい結果につながりました。

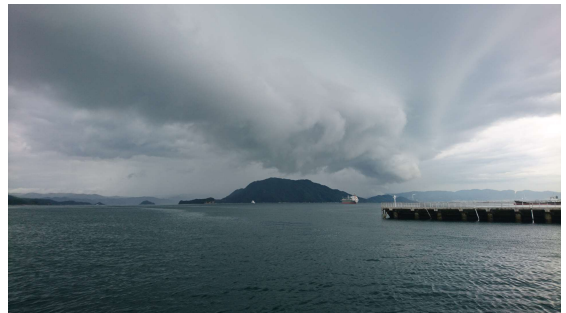
雨雲が通り過ぎてから、後ろ髪をひかれつつも波止の内向きを釣ることを決断し釣りを再開しましたが、波止の外向き同様に付けエサのオキアミは取られるだけであたりが出ない状況が続くため、付けエサをコーンに変更してみると今度は残ってくるもののあたりは依然ありません。

そこで、付けエサを練り餌に変更して、しばし撒餌と仕掛けの投入を繰り返していると潮が右から左へ動き出した10時30分頃、ウキがやや沈み加減になりました。

そのままじっと待っているとじわーとウキが沈んでゆき、ウキが見えなくなってしばらくして合わせを入れると、時折ゴンゴンと竿をたたくようなチヌ特有の引きが伝わってき、時折の突っ込みに耐えながら釣りあげたのは、待ちに待った40cmのチヌ。



釣り座とした西側の波止



どしゃぶりを予感させた雨雲



待望の1匹目40cmのチヌ

# 梅雨明け間近にチヌふかせ釣り in 大津島

2024年8月1日

4 / 4

やれやれと胸をなでおろし、同様の仕掛けで同じ作業を繰り返しているとその15分後、前回と同様にゆっくりとウキが沈み合わせを入れると、うまく針掛かりし、やや細身ではありますが本日最大長寸46cmのチヌをゲット。

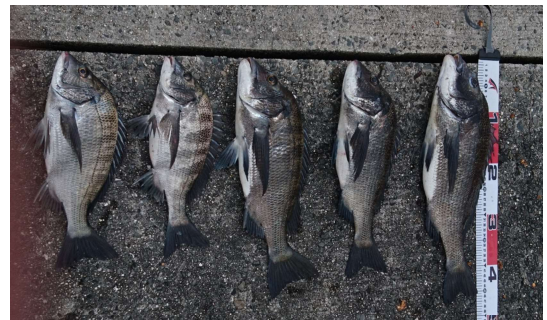
以後同様のパターンで43cm、35cm、33cmと続けて釣れたため、今回はもう十分とサイズアップは狙わず、12時には後片付けを始め、最後に今回お世話になった波止を洗い流した後、12時30分には港に向かい、13時発のフェリー新大津島に乗り昼食をとりました。

これまで夏場の釣りはいい思いをしたことがほとんどなく、今回もエサ取りの猛攻を想定し1匹釣れば御の字とだけ思っていただけに、チヌ以外釣れることなく3時間でチヌ5匹は私にとってできすぎの、にっこりした釣果でした。

ただ、その一方でロッドケースを左手に、クーラーボックスを左肩に、そして12kgの撒餌さをキャリーカートに積んで釣り場まで600mを運び、釣り座についていざ仕掛けをつくろうとすると、加齢などによる体力の衰えのせいか、手がプルプル震えて手早く仕掛けを作ることができず、釣り大会への参加はありえないと思われしられた釣行となりました。



本日最長寸46cmのチヌ



本日の釣果整列

鮎川 和文